

乙訓文化

(創刊号～40号)

乙訓の文化遺産を守る会

乙訓文化合冊号の発行について

この合冊号は当会の会員、楊枝憲二氏(故人)の発案により個人レベルで発行された。
当時いろいろな批判があつた。理由は著者の許可なく合冊号を発行された事です。
すでに合冊号が出来上がり楊枝宅にうず高く積み上げてあつた。
出来上がったのは仕方ないということであつた。その後、楊枝氏は故人となられた。
楊枝憲二氏の御両親は在庫本・パソコン・資料等を長岡京市に寄贈された。

乙訓文化記事紹介

乙訓文化1号 御存知ですか「泉殿の森」

知りたい農民の暮らし

乙訓文化2号 弟国宮跡?の発見 「弟国宮」について

削り去られた貴重な遺跡

乙訓文化3号 古老から聞く民衆の歴史 今里の農用水路 長岡町今里 S・Tさん

乙訓文化4号 鶏冠井題目踊りに寄せて

乙訓文化5号 天王山一帯の風致地区について

宝菩提院廃寺の研究[上] 高校生の研究

山城国一揆と乙訓郡

向日神社か向神社か 六人部先生の御教示に答えて

乙訓文化6号 乙訓の竹と筍

宝菩提院廃寺の研究[中]

乙訓の古社寺 乙訓寺・みかんの歌 「性霊集」(巻4)空海の文集

乙訓文化7号 特集 衆院選・長岡町長選 文化遺産についての各候補者への質問と答え

森本で弥生時代の弓等が発見

乙訓文化8号 宝菩提院跡の保存について

長岡京遺跡調査の現状と対策(白書)

森本地区(弓)発見

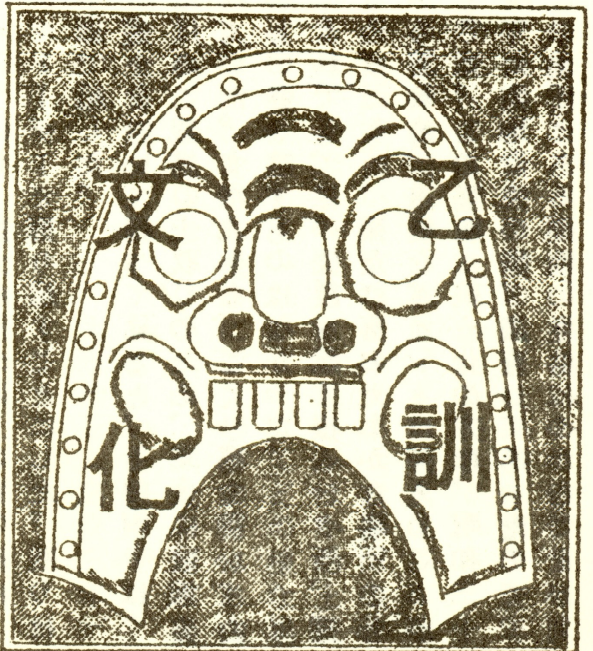
宝菩提院廃寺の研究[下]

建国記念日をめぐって

乙訓文化9号 長岡京調査にあたっての悲しい誤算

檜原廃寺 会の発展のために 乙訓の風俗

乙訓文化10号 洛西の古墳群(第一日曜部会) 向日町・大山崎村長選、文化遺産について
の質問と答え



1 号

発行・乙訓の文化遺産を守る会
京都府乙訓郡向日町大極殿

目次

- 乙訓寺の発掘……………中山修一
- 四一年度・長岡宮発掘……………中山修一
- 住居跡も調査を……………大原治三
- 私の発掘記(Ⅰ)……………袖岡正清
- 三月例会記……………清水好子
- 「泉殿の森」をめぐる……………清水好子
- 議問答……………山口光一郎
- 会の活動報告……………小林清

白鳳時代を下らぬ建築

乙訓寺の発掘

滝の町の生徒を、向日町立向陽小学校へ通
わすことを拒絶されている長岡町では、乙訓
寺の北の敷二万平方m以上を買収して、町立
第三小学校を建設することに決定した。

この敷はかつて瓦窯や、布目瓦や弥生式土
器が出土することが知られていたもので、会員
・山口氏や湯浅氏、小林氏等から長岡町当局
に対して、整地以前の発掘調査を申入れてい
た。長岡町としては、校舎建築に一日も早く
着手しなければならぬ事情があったが、府

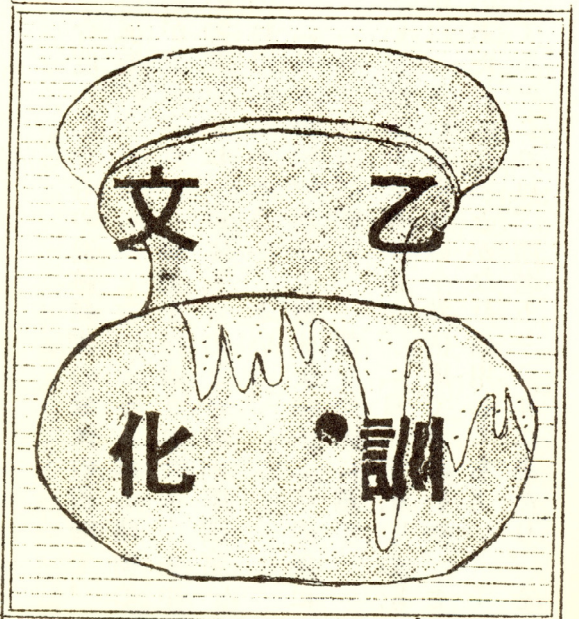
教委等とも相談して、四月三十日まで発掘調
査することを認められた。

調査主体は、これも府教委文化保護課で、
調査主任は福山京大建築学主任教授、他に調
査員として樋口考古学助教授、西川建築学助
教授、会員・中山等のスタッフは朝堂院と同
じであるが、これに建築発掘のベテラン杉山
奈良文化財調査室長も調査員として参加して
いる。文化財保護課の大石、堤両技官も計画
測量等に調査員として参加した。

何しろ期間二〇日、費用もそう多くない条
件下で、二万平方m以上の土表を調査すると
云うわけであるから、発掘の重点指向地を探
り出すのに苦心した。さいわい、南北にわた
って数条の掘り込みや溝があったので、これ
を清掃して断面を調べた。また奈良時代の各
寺院の大きさ等を参考に、旧乙訓寺北端
を推定する図上作業も行われた。これに最も
努力されたのは、会員・小林清氏や会員・橋
本庄次氏である。苦心が結実して、橋本氏は
遂に一個の根石群と雨だれ落の部分が発見し
た。あとになって判ったことだが、根石と雨
落が、最も完全な形で残っていたのが、最初
橋本氏が発見された所であって、これは会員
諸氏の苦心に、乙訓寺の別当であった弘法大
師が感応されたのだと、戦前ならば云ったで
あろうと思われる程の幸運な発見であった。

四月二十九日までの成果では、建物は東西
に長いもので、東西八本、南北に五列に並ん
でいる。三列目は内陣であるから、中の部分
の柱は欠けている。柱の距離・間隔は、桁行
・梁行ともそれぞれ三mの方眼状を示し、出
土瓦の形式と考え合わせて、先づ白鳳時代を
下らない頃の建築と考えられる。瓦は奈良時
代のものが最も多く、この寺が、長岡京以前
にすでに栄え、平安時代の空海・最澄が一し
よにこの寺で研さんした頃が、この寺の盛時
であった様に思われる。

(中山修一)



2 号

発行・乙訓の文化遺産を守る会
京都府乙訓郡向日町大極殿

目 次

- 弟国宮跡? の発見…… 中山修一
- 「弟国宮」について…… 黒田俊雄
- 乙訓寺の発掘続…… 中山修一
- 会員の一人として…… 橋本庄次
- 私の発掘記(2)…… 袖岡正清
- 乙訓の古社寺(1)…… 藺田香融
- 提言ふたつみつ…… 中山治一

弟国宮跡? の発見

削り去られた貴重な遺跡

乙訓寺講堂跡の調査が終りに近づいた頃、その東北六・七十米の所から数個の柱跡らしいものと焼却場の跡らしいものが吉本堯俊氏によって発見された。

(1) 早速福山博士に報告すると共に、発掘参加者全員をその方に行って貰って調査した。その結果、柱の距離六尺、柱かず十本の掘立柱

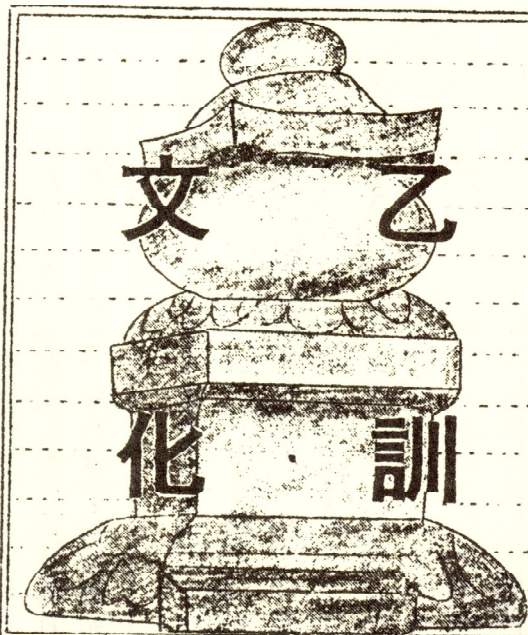
列が九尺の間隔を距て、二列ならんでいることを知った。恐らくこの二列の東側にも数列の柱列があったものと考えられるが、この部分も土取のため掘り下げられていて、調査はできなかった。この二列柱列のほど中間を南北に走る掘り込みがある。この掘込と約六メートル(十九尺)をへだて、西方に同じよう

上の「乙訓文化」のバックの絵は、一九六二年五月、長岡京・小安殿跡より出土した「はそう(塙)」です。(腹の黒い丸は穴です)。尚、前号の絵は、長岡京大内裏跡より出土した「鬼瓦」です。

な溝が南北に走って、やがて北の方へ屈折し、合流して北の方へ伸びている。明かに排水溝らしい。

柱列には奈良時代頃のわんやつきの破片や瓦が入り込んでいるが、溝の中からは飛鳥時代前期の様式を示めす土師が多く発見されて柱列より一時代古いことを考えさせる。

この柱列や溝と無関係に広い地域にわたって散在する掘立柱があることが注目された。重なり合いの具合から見るとこの柱跡の方が溝より古い。これ等の柱跡は深さが必ずしも一定ではない。すでにブルドーザーで削り去られたものもある模様だし、わずかの痕跡しか残っていないものもある。また深さ三十センチメートル位のものもある。しかしこれ等が建築遺跡であることは間違いないようである。今少しく詳しくこの柱穴に注意して見ると、この柱穴は前記の二列の掘立柱穴列に比べてその穴の中に、土器を含むことが少ない。わずかに含まれていた須恵器の破片から考えられる年代は、古墳の中期から後期への過渡期のものようである。また柱の間隔は必しも一定していないが(なかに削り取られたもの



3 号

発行・乙訓の文化遺産を守る会
京都府乙訓郡向日町大極殿

目次

- 今里の農業用水……………湯浅克二
- 三間僧房の発見……………中山修一
- 乙訓の古社寺(2)……………菌田香融
- 活動報告……………小林 清
- 提 言……………山室俊平

故老から聞く 民衆の歴史

今里の農用水路

語る人……………

長岡町・今里

齊藤友三さん

はじめに

農民にとって水が異状な関心事であることは今も昔も変わらないが、ポンプなどなかった以前には、水は、文字通りの死活問題であった。農民にとって水が切実であつたればこそ、

用水をめぐる農民の、生命をかけたなみなみならぬ努力や斗いが、全国各地で展開されてきたのであった。

こゝに紹介するのは、私たちの郷土に伝わる、祖先の、用水をめぐる生々しい斗いの歴

上の「乙訓文化」のバックの絵は、大正寺にある、今井九左衛門の墓碑
(「今里の農業用水路」参照)

史です。

今里部落の故老・齊藤友三さんの話を聞き、さらに数人の地元の方の説明を受け、(会員湯浅が)書きまとめました。

今からおおよそ百数十年前(江戸時代)のことである。大原野・上里部落から、今井九左衛門と名のる青年が(養子として?)今里部落——(長岡町今里)——に移って来た。

当時、今里部落民は大変な水不足に悩まされていた。今井九左衛門は、上里に水がよく湧く泉のあるのを知っていたので、上里から井ノ内を通り今里まで、遠々数キロメートルにおよぶ用水路をつくり水を引く計画を考えたのである。今里部落民一同は、この計画に賛同し、彼が指導者となり、部落上げての用水路工路がはじまったのである。

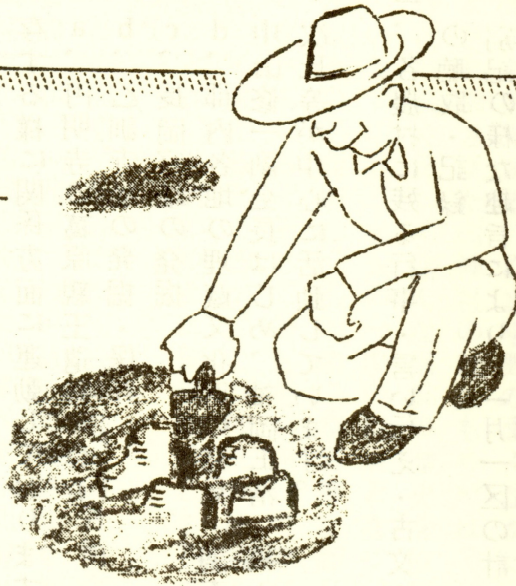
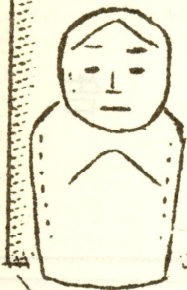
一方、上里部落では、上里には用水池がなかったたので、田に井戸を掘り、それをくんで灌漑用水としていたが、今里の方へ水が流れ出すと井戸の水が濁れる恐れがあるので、当然、上里部落民は今里の用水路工事に猛烈な反対をしたのである。

今里部落では水がどうしても必要であつたの

八月例会案内

乙訓寺の発掘

郡内の文化遺産



映写

スライド

八月七日午前十時から

長岡町公民館

今回の乙訓寺の発掘により
旧乙訓寺は当初予想した

以上に規模が大きく

薬師寺級の大寺
院であったこ
とがわか

りました。

同時に、継体

帝の弟国宮の遺

址も出土しました。

この意義ある発掘のスラ

イドを映写しますから、多数

御出席下さい。

尚其他乙訓各所の文化遺産のスライド
も併せて映写します。

提言

一、長岡宮の跡をたずねて感じたことは、長岡宮の建物はこんなものだと言う、想像図が、誰がたずねて来ても、わかりやすい説明が欲しい。更に資料を陳列された資料館

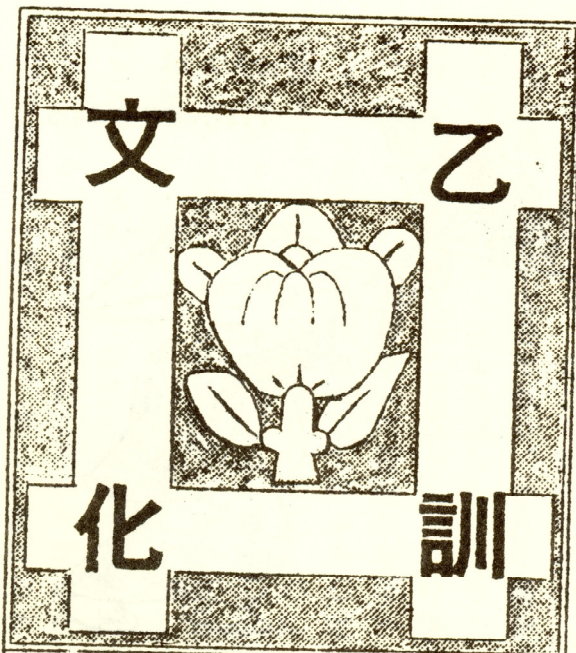
二、小学校を造るために、発掘されている遺跡がつぶされていこうとしている。これを守るために、会員は熱心に考えるべきではないだろうか。

町役場にはたらきかけて、資料館なるものを作らせて、保存していく運動。

三、会として、住民の理解を求めるためにも、講演会、又は、学習など持って、運動を展させていく。

以上のようなことを、会員の皆さんに提言したいと思います。

(山室俊平)



4 号

発行・乙訓の文化遺産を守る会
京都府乙訓郡向日町大極殿

目次

- 鶏冠井題目踊に寄せて……………黒田俊雄
- 私の発掘記(3)……………袖岡正清
- 田能紀行……………森田吉郎
- 乙訓の古社寺……………藺田香融
- 向日神社について……………六人部克己
- 鶏冠井の古文書……………脇田修
- 活動報告……………小林清

鶏冠井題目踊に寄せて

先月、私たちの会の仕事として向日町鶏冠井で宮座についていろいろ聞かせてもらっていたとき、いまま鶏冠井では題目踊が伝えられていることを知ったのは、私にとって大きな喜びであった。

鶏冠井は、西日本ではじめて法華宗が弘通した地として著名で、それだけに古来住民全部が法華の信徒という「皆法華」の村の代表的なところであった。鶏冠井と似たところとしては、洛北の松ヶ崎があるが、ここでも法

華信仰のさかんだったことは、いまま八月十六日の夜、大文字とともに北山に浮ぶ「妙法」の火の文字によって多くのひとに知られている。そしてこの松ヶ崎にも題目踊が伝わっている。

鶏冠井の題目踊も松ヶ崎の題目踊も、いつごろからはしまったものか、正確なことは今日わからないようである。しかし、大体的に見当としては戦国時代ごろとみてよいのでなかろうか。というのは、「皆法華」といわれる

上の「乙訓文化」のバックの絵は、鶏冠井の題目踊の着物に染め込まれた紋で、一三〇〇年代のはじめ、鶏冠井で法華宗を弘めた日像上人の紋と伝えられている。

村の生活がさかんだったのも、山に火の文字が灯されるようになったのも、京都の町衆や近郊の村々が法華一揆で村の自治を守ろうとしたのも、戦国乱世の時代のことであつたからである。

村人が結束して自治を守ろうとするような雰囲気の中なかでは、踊りはきわめて適当な村人の文化であつた。一般に盆踊がいまのような形でひろく親しまれるようになったのが、やはり戦国時代だったが、そのように戦国時代は武士は領土の奪い合いと殺し合いに殺伐な世を送っていたが、一般庶民とくに関西の都鄙の庶民は、自治と民衆文化を発達させていた。近年各地で無形文化財に指定されたりしている念仏踊や六斎念仏なども、やはりこの時代に発達したもので、念仏と題目のちがいはあるが、民衆のなかで育った生活文化であることでは、同じである。

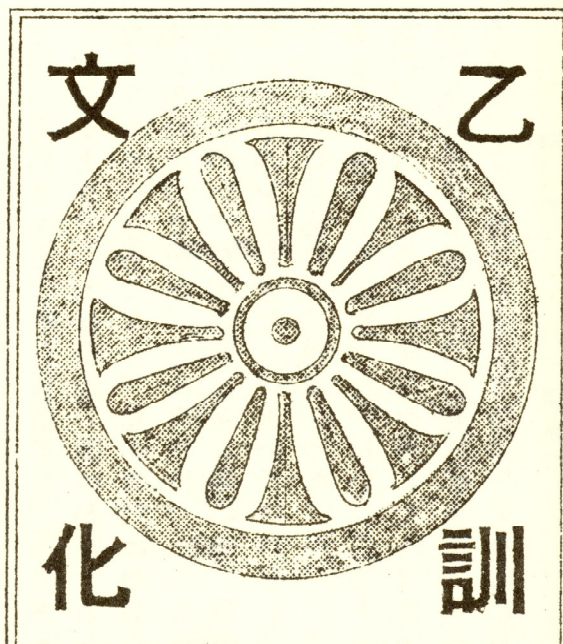
鶏冠井で、題目踊の音頭本(歌詞)をみせていただいたのも感激であつた。私が拝見したのは新しく浄書されたものだったが、歌詞そのものには、「閑吟集」「隆達小歌」など戦国―江戸初期の歌謡に通ずる古風な味わいがあり、また法華の教義と信仰の実際が平易

(1)

私はかねてから車窓からみる天王山を中心とした山々は、歴史の地山崎を象徴する緑の山として限りなき愛着をもっておりました。ところが最近この山を開発してドライブウェイを作るとか、遊園地・住宅地にするとかの計画があると聞きました。以前こゝにドイッ風の城を建てたり、男山との間にロープウェイをつけるとかの計画がありました。幸い中止になり良かったと思っておりました。しかるに亦々この様な計画が出てくると、この美しい緑の山崎の眺めが破壊されるのでは

ないかと不安です。この地帯は、図の範囲は西山風致地区の一つとして指定されています。今後この主旨にそい風致を第一として現在の緑の山が保たれて行くことを希望します。今度の計画がどの程度進んでいるか知りませんが、今迄の経験から、計画が決定されてからこれを中止・変更することは非常に難かしくなります。計画が決められない内に、我々の切なる希望を表示して、我々が住む郷土乙訓の良き環境を何とか守りたいものです。

天王山一帯の風致地区について



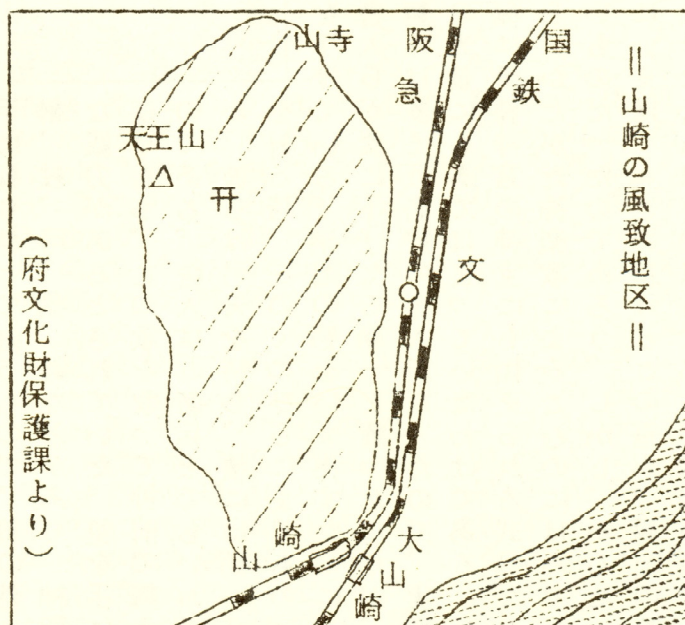
5 号

発行・乙訓の文化遺産を守る会
京都府乙訓郡向日町大極殿

目次

- 天王山一帯の風致地区について……小林 清
- 岡は友岡……清水好子
- 宝提菩薩院廃寺の研究(上)……大原治三
- 乙訓の古社寺(四)……蘭田香融
- 山城国一撥と乙訓郡……熱田 公
- 向日神社か向日神社か……蘭田香融
- 活動報告……小林 清

上の「乙訓文化」のバックの絵は、一九六六年、袖岡氏がはり湖池横から発見された宝提菩薩院の瓦(拓本)



(府文化財保護課より)

山崎は新・旧東海道線・名神高速道路・阪急等が通り、関西に旅する大部分がこの地帯とおり、京都府の玄関にあたる処です。万一この地帯が開発の名のもとに風致が破壊される場合は、乙訓郡だけでなく京都府全体の問題と考えています。

会員の方に天王山一帯が風致地帯であることを知っていただき、出来る丈この問題に関心をもってほしいものと思います。御意見を待っています。

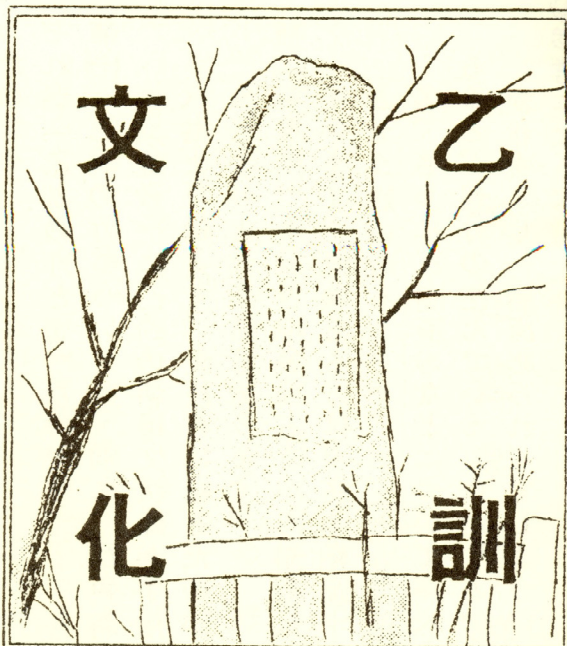
(小林 清)

(1)

前号の「乙訓文化」で「友岡」について書かれてありました。かつて友岡に住んだことのあるわたしだけに、なつかしく読ましていただきました。今の梅が丘も花山もまだ竹藪ばかりで、長岡天神からの坂を登り友岡にぬけるあの間を、昼でも自転車に明りをつけて走る人もあった時代の話しです。思えば変わったものですが、その頃の乙訓の竹と筍について、わたしの知っている範囲で、ごく一般的な話をしてみましょうか。

乙訓の竹と筍

長岡町奥海印寺に寂照院と云うお寺があります。鎌倉時代にそのお寺の院主の友人が中園から孟宗竹を持って帰り、それを寺の所有地に植えたのが、乙訓の孟宗竹のはじまりとされています。また、乙訓の竹は枕草子や梁塵抄に友(範)岡山王の笹として、知られていました。だがその当時は今のような食用でなく、賞翫具(もてあそぶもの)で、食用になつたのは、天保年間と伝えられています。山崎観音寺日譜によると安政のころ既に油糟



6 号

発行・乙訓の文化遺産を守る会
京都府乙訓郡向日町大極殿

目次

- 乙訓の竹と筍……………楊枝憲二
- 推定中務省の発掘……………中山修一
- 推定豊楽院の発掘……………
- 宝菩提院廃寺の……………
- 研究(中)……………大原治三
- 乙訓の古社寺(五)……………藺田香融
- 蛤御門の戦と天王山……………時野谷勝
- 活動報告……………小林清

上の「乙訓文化」のバックの絵は、明治のはじめに乙訓筍の販路の拡張と価格の安定に努力した三浦芳次郎彰功碑

や練の肥料を入れて、土入れをした記事があるところより、このじぶんから乙訓の筍が食用に広くもちいられたのでしよう。江戸時代も終りに近い頃です。

土質や陽あたりの条件にもめぐまれて、かなり発展したようですが、明治維新を少し過ぎた頃、一時乙訓の筍にも恐慌状態がきました。このことは土地の御老人なら誰れかに聞いて知っているかも知れません。この時が乙訓の筍における一つの岐路でした。それを大山崎円明寺の青物仲買人、三浦芳次郎が神戸の方まで販路拡張に努めて危機を救ったのです。機会があれば現在小泉川の堤、円明寺と調子の境界に、彼の功績をたたえて建てた顕彰碑を一度読んでみるとよいでしょう。時、明治二十六年と記されています。

それ以来、「竹の乙訓日本一」と云われるようになりました。その一つの例が、現在の梅が丘、黒池より南二百米(公園内)にある「東宮殿下台臨地」の石碑でしよう。「庭に咲く垂桜もまちつらむ：」と歌う大正七年四月、今上天皇は金ヶ原から光明寺に向う途中、人力車からおりて、筍掘を見学されたのです。「日本一」と云われたのは筍ばかりでなく、竹においても、大正九年竹製の机を作

乙訓文化

7 号

発行・乙訓の文化遺産を守る会
京都府乙訓郡向日町大極殿

特集

目

次

衆院選・長岡町長選
文化遺産についての
各候補者への質問と答え

○カタバミ考……………吉川一郎
○活動報告……………小林 清

カタバミ考

落語に登場する熊さんたちの説によると、大蛇をウワバミと呼ぶのは、ウワがバムからだそうである。カタバミという小さな野草の葉は、ハートの形を意識しなかった、むしろの人にはカタがバムから、このように呼んだのかも知れない。しかし、これには一枚の葉に並んで一つの実ができるから偏葉実だという説もある。乙訓地方では別の方言が行なわれていて、十一世紀ころ、すでに図案化して車の目じるしにされ、のちには公家の冷泉入江、武家の酒井氏などが、これを家の紋章とした。図柄もいろいろに考案され、紋章で

は大関・関脇級の地位を占めている。ムラサキカタバミは、こうした人たちの好みと、きれいな花をもっているもので、十八世紀ころ、南米から観賞用に持ち込まれたという。しかし、その強い繁殖力は農家や園芸家の敵となり、それと気づいたときには、もはや手おくれで、荒地のまま放置する場合が多い。かわい形と色の野草が、もたらした害であるが、その害を知る人は限られている。おなじ植物でも、タバコは段ちがいである。十六世紀の末、万能霊薬の生薬（きぐすり）の仮面をつけて渡来すると、江戸幕府の勢威も、これを防止できず、明治以後は専売制に

して政府財源に逆用された。動くアクセサリであるとか、きょうの元気はタバコのせいのような宣伝までして、火災や肺ガンの種をまき散らしている実情である。

同様のことが公営事業の中で見られる。馬匹改良の軍事目的からの競馬、自転車工業振興をうたった競輪などが、それで、とくに後者については暗い社会問題が続発していることは周知されている。

いま、われわれの周辺で開発の名のもとに風致破壊が行なわれ、先人の信仰や願望がブルドーザーに荒らされている。それらの中には、住宅や公共施設など、どうしても容認しなければならぬ事情もあるが、厚生・娯楽の名のもとに企画され、建設されようとするものには、将来はカタバミとなり、タバコとなる禍根となるものがあるのではないか。

広大な国土に、少ない人口のカナダが自然景観を破壊することを恐れて冬季オリンピックの主催国を辞退した話は、まだ耳新しいことであり、大いに戒悟すべきことである。

大樹の下には雑草は生えないという。われわれ乙訓の文化遺産を受けつぐものは、眼前の利益に理性を曇らせることなく、また、この地を風致地区として守って来られた先人に恥じることないよう、このさい、百年の大計のもとに理性の大樹を育てあげ、雑草や害草をその下に繁茂する余地を与えないことが肝要であるまいか。

（吉川一郎）

宝菩提院跡の保存について

向日町寺戸の宝菩提院跡の土地約三三〇〇平方メートル（一千坪）が花の寺から住宅地として売りにだされているときいている。

宝菩提院の事は大原君が度々書いていたが、出土してくる白鳳時代の重厚な瓦や寺戸岡崎氏の庭にある巨大な塔心礎から、奈良時代に創建された大寺院であったことは間違いない。また最近迄この地にあった仏像・如意輪観音半伽像（国宝・弘仁）薬師如来立像（国宝・藤原）は平安時代日本の代表的彫刻といわれる程芸術的にも優秀なものである。（太秦広

隆寺の本尊薬師如来像も元はここにあったと伝えられている。）この様に由緒深い寺院であったが、数年前に建物は解体され、仏像は大原野花の寺に移されてしまったことはかえすがえす残念なことであった。

今その花の寺から宝菩提院跡の土地が売りに出され、不動産業の手に移らんとしている。一たびこの様なことになれば寺院様式は何一つわからずに、永遠に消え失せてしまうのである。元の宝菩提院はもっと広い境内であったが、その中心建物がこの跡地にあったと思

われるから、正式発掘をしたならば色々遺跡が出てくるだろう。国の文化財保護委員会もこの寺を注目し昨年乙訓寺発掘の話題にのっていた。

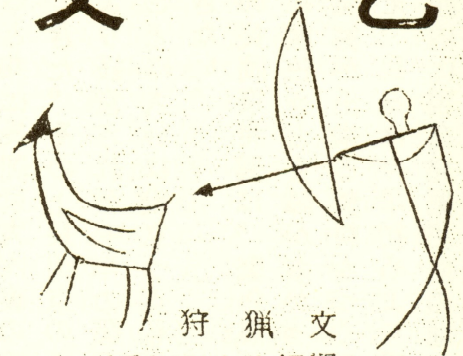
この際最も望ましい対策としては、この仏像を再びこの地にむかえる様、地元寺戸の方々の力でそれをまつる建物或は寺院を再建することである。しかし寺院再建は早急に難かしいならば、少くともこの由緒ある寺院跡地を住宅地化させない様に確保せねばならない。一方花の寺が百年・二百年前からこの仏像を保存し、土表を管理しているならいざ知らず、僅か数ヶ年間仏像を預っただけで、広い土地を勝手に売りに出すのは筋が通らないことと思う。

大字寺戸の名は宝菩提院の寺を守る人々の集りということから来た名と伝えられている。今迄祖先が一〇〇〇年以上長い間何んとか守りつづけた寺院・仏像が、今の代になって、こんな事になったことは何んとしても情けない事である。

是非寺戸の有志の方々が早急に結集され、この地を守り進んで仏像をも守る様奮起される様切望する。

乙訓郡は歴史的に由緒深い土地だから、それにふさわしい町づくりのために、少くとも史跡のある公有地・寺社地は緑地としておくことを我々の会は主張してきた。この立場から我々は宝菩提院の跡地を緑地として永く残る様広く与論に訴えるものである。

乙 文



狩 獵 文
(香川県出土銅鐸より)

訓 化

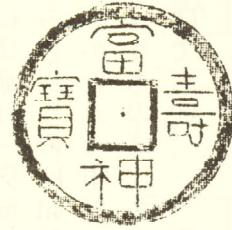
8 号

発行・乙訓の文化遺産を守る会
京都府乙訓郡向日町大極殿

目 次

- 宝菩提院跡の保存について
- 長岡京遺跡調査の現状と対策（白書）
- 森本地区「弓」発見：坂下勝美
- 宝菩提院廃寺の研究（下）：大原治三
- 「建国記念の日」をめぐって：六人部克己
- 石は語る①：黒田俊雄
- 岡田光義

乙訓文化



9 号

発行・乙訓の文化遺産を守る会
京都府乙訓郡向日町大極殿

目次

○長岡京調査……………	中山修一
○檉原廃寺……………	小林清
○会の発展のために……………	
太田伝一郎・高橋一夫	
上田半三・塩尻三雄	
齊藤哲雄	
○乙訓の風俗……………	高橋一夫
○乙訓の古社寺内……………	蘭田香融

長岡京調査にあたっての

悲しい誤算

最初間違った方針を立てたために、後になってその方針を変更するのに大変苦勞することがある。苦勞しても、結果的にうまく行くならば、まだしもであるが、修正する迄に、大切なものを失ってしまつて、もはやどうにもならぬと云うこともある。

長岡京でもそう云うにがい経験をしている。

(1) 諸京は、その根本にはそう変つたところはない。最初長岡京の研究にかかった頃は、数ヶ所の違いはあるとしても、平城・長岡・平安の

かろう、と推察していた。大して違わないとすれば、都の内部の発掘調査については、全面的にこれを平城京に譲り、平安京は文献的な調査を、長岡京は十年間にどの附近まで都の設備や民家の建造が進んでいたかを調べて行けばよい。と考えていた。

ところが平城京の大規模な継続的調査や難波宮の連年の発掘は、同一都城の中においても、年が変れば建物の配置も変り、一つ一つの都にはそれぞれ固有の特長と云うものがある。

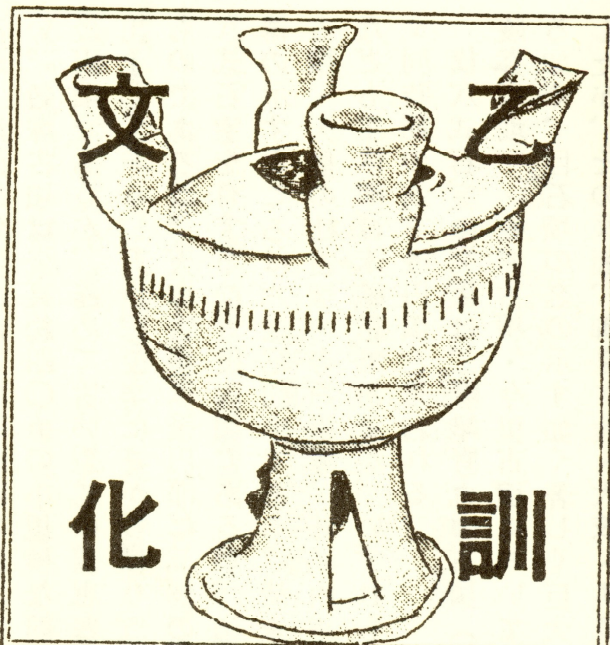
上の乙訓文化のバックの絵は、一九六一年三月から実施された長岡宮跡第三次発掘調査において、小安殿附近から発見された貨幣富寿神宝は、嵯峨天皇のとき、八一八年(弘仁九)より発行の銅銭。

ることが明かになった。こうなつて来ると、どうせ大内裏の調査などは平城京だけで大丈夫であろうなどと到底云えなくなつてしまつた。

そう気がついた時には、すでに都の中の大切な部分が十数万平方メートルも破壊されてしまつて、取り返しのつかないことになつていた。あわてゝ長岡京の調査も平城京の調査なみに意義があると訴えて見ているのだが、府や国の認証は私の頭初の認識とそう変つた所もなく、大規模な発掘調査もなかなかできそうにもない。

四月七日、小林清事務局長と共に、長岡京の発掘調査ならびに保存について、要望するため東京の文化財保護委員会に三宅課長や坪井技官を訪れた。

三人とも長岡京についてはよく知つて居り、ことに坪井技官は平城京発掘に長年従事していただだけに、いろいろなことについて、よく呑み込んでいた。「長岡京においては大内裏の部分の隅々からも瓦や凝灰岩の出ること、四条、五条、六条附近からも瓦の出土があること等」を説明し、また各都城それぞれ個性がある以上、それぞれを十分保護し、調査す



10 号

発行・乙訓の文化遺産を守る会
京都府乙訓郡向日町大極殿

目次

- 洛西の古墳群……………吉本堯俊
- 「第一日曜部会」……………
- 石は語る(2)……………岡田光義
- 目と耳……………会より
- 乙訓の古社寺(七)……………藺田香融
- 向日町長・大山崎村長選
文化遺産についての質問と答え
- 活動報告……………小林 清

洛西の古墳群

洛西の地は、桓武天皇造宮による長岡京一〇年の都城跡をはじめ、それ以前の遺跡も少なくなく、特に古墳群の所在をもって知られている。

洛西において、縄文式時代の痕跡はほとんど確認されていないが、弥生式時代の遺物の出土は、この数年間に著しく増加しつつあり、将来は住居跡、あるいは埋葬の遺構の発見も十分期待できよう。

西暦四世紀初より飛鳥時代に及ぶ三〇〇年

をこえる期間を考古学では古墳時代と呼んでいるが、乙訓丘陵を中心とする洛西の丘陵とその縁辺において、この古墳時代を通じて絶間なく巨大な墳丘の造宮が継続されたのであった。

それは、まず丘陵の稜線上に築かれた前方後円・前方後方の外形をとる巨大な墳丘に葺石をしきつめ、円筒埴輪をめぐらし、その頂部に扁平な割石を積んで壁を築き、その上に天井石を架した竪穴式石室を設け、その中に

上の「乙訓文化」のバックの絵は、長岡町今里にある「七ツ塚古墳」附近から出土した「子持壺」です。

木棺を安置し、副葬品には、舶載品（中国より輸入）を含む銅鏡・碧玉製の祭器たる石製品（鉄形石・車輪石・石釧など）・儀杖用と思われる銅・杖頭とおぼしき筒形銅器・刀剣・農工具（斧・鎌・乙子・やりがんななど）を有する所謂前期古墳と呼ばれるものにはじまる。長法寺南原古墳・寺戸大塚古墳・五塚原古墳・妙見山古墳・一本松古墳・元稻荷古墳などがこれに相当し、年代は四世紀にさかのぼる。いずれも全長一〇〇m前後の前方後円あるいは前方後方墳である。中でも長法寺南原古墳出土の六面の鏡はすべて舶載品であり、発生期の古墳の姿相をよく示しており、元稻荷古墳は山城国の前方後方墳二基中のひとつである。

続いて、墳丘が丘陵よりはむしろ平地やその縁辺に築かれ、墳形にも大型円墳が加わり主体部に木棺を粘土で包んだ粘土廓が用いられる様になった。副葬品も、鏡においては仿製鏡（中国鏡をまねた鏡作部の製作）が主となり、碧玉製品以外に滑石製祭器（石製模造品ともいう。刀子・鏡・下駄・杵・斧などを滑石で模したものを）を含むようになる。鏡山古墳よりは優秀な多種の滑石製祭器が出土している。鏡山古墳・百々池古墳・恵解山古墳